

能力を伸ばし、社会で自立する力をはぐくむ教育の推進

「確かな学力」の定着

【現状と課題】

教育基本法等の改正を受け、学習指導要領の改訂が行われます。(小学校においては平成23年度から、中学校においては平成24年度から完全実施、高等学校においては、平成25年度からの学年進行で実施)

学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、今後求められる学力である 基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学習意欲の向上や学習習慣の確立等を図る必要があります。

小中学校においては、「基礎・基本」定着度調査や全国学力・学習状況調査の結果等によると、小学校では概ね基礎学力が定着していますが、中学校では数学、理科、英語で定着が不十分であり、活用に関する問題について課題がみられます。

また、家庭学習については「家庭学習60・90運動」を展開していますが、平日の家庭学習の時間が1時間以上の小学生は64%、中学生は75%となっています。

高等学校においては、生徒の将来の夢や幅広い進路希望を実現するため、それぞれの学校において進学や就職に対応できる学力の向上を推進しています。

【これからの施策の方向性】

学力向上へ向けた取組を推進するために、各地域ごとの小中高連携による公開授業や授業研究を通して、教員の指導法の改善等を図ります。

知識・技能の活用力を育成するために、「言語活動の充実」や「学習意欲の向上」、「体験的活動の充実」等を重視した学習活動を推進します。

各学校において、「基礎・基本」定着度調査及び全国学力・学習状況調査結果等を踏まえ、学力向上についての「P(具体的な計画=マニフェスト)・D(共通実践)・C(検証)・A(改善策=アクションプラン)」のサイクルを確立し、計画的、具体的な指導方法の改善などを行う取組を推進します。

小中学校においては「基礎・基本」定着度調査で各科目70%以上の正答率を目指します。また、平成19年度に策定した「学校改善支援プラン」に基づく取組を推進します。

高等学校においては、生徒の学力と教員の指導力の向上を図るために「県立高校学力向上推進プロジェクト」事業に基づく取組を推進します。

【主な取組】

各教科の研究を推進する学力向上推進委員等を活用しつつ、各地域ごとの小中高連携により、公開授業や授業研究及び相互授業参観等を通じた研修会を開催し、その成果を県下の教員で広く共有することによって指導力向上を図ります。

学習指導要領の改訂の趣旨や内容の周知・徹底を図り、各学校において、円滑な移行措置や先行実施が行えるような取組を推進します。

「基礎・基本」定着度調査等の結果に基づき、各学校がアクションプランを作成・実施し、成果や課題を把握しながら、計画的・具体的な改善を行うよう指導します。

また、一連のサイクルを公表することにより、学校、家庭、地域が課題を共有し、連携して学力向上が図られるよう具体的取組を推進します。

各学校に指導資料を配布するとともに、特に課題が見られる学校には指導主事が重点的に訪問指導を行い、学校の実態に即した計画的、具体的な取組を推進します。

小学校低学年における30人学級の推進や、各学校の実態に応じた習熟度別指導、少人数指導などきめ細かな指導や、中学校における免許外教科担任解消のために必要な教員の配置に努めます。

学習ガイド「鹿児島ベーシック」等の利用促進や「家庭学習60・90運動」のより実効的な展開などにより、学習習慣の確立に努めます。

学力向上に向けて、学生、保護者、教員OB等の外部人材を活用した取組や長期休業日を利用した各市町村の取組などを促進します。